

広域化の必要性について

主な意見

広域化で良いと思っていたが、否定的な意見が多いことを認識した。今すぐ広域化する必要があるのか。ただし、近くから来てほしいとの思いはある。

飯南町の大田市境界付近で救急車を呼んだ際に、大田消防三瓶出張所からなら5分程度で来れるところ、雲南消防飯南署から来たので時間がかかったとの話がある。近くから来てほしい。

消防としては署に複数部隊を配置することが理想的な消防力と考えている。

市町村合併がようやく落ち着いたなかで、今すぐに広域化するのはいかがか。時間が必要。

相互応援協定は各本部で対応できない場合の応援であり、直近署所からの出動への有効手段とは言えない。

広域化の枠組みについては議論する必要があるが、メリットはあり広域化は必要である。

広域化自体はメリットがあるが、大規模本部にとってはメリットが少ないため住民理解が得られるか。

効率化してかつ現状のサービスの低下がなければ広域化のメリットはある。あとは個別議論。

長野県松本広域では検討開始から2年間で広域化した。今後5年間検討期間がある。将来を見据えた検討が必要。

広域化の必要性は認められる。

圏域毎の検討について

県一圏域

諸問題はあるが、スケールメリットを最大限生かされる。

全県一体となった消防体制がとれる。

人口減少などの将来を見通した考えであれば県一圏域もある。

広域化の枠組みが小さければ、広域化後の本部人員における現本部からの拠出人員が多くなるため、現在の小規模本部ではメリットが少ない。場合によっては出せないこともある。

将来的には県一圏域としつつ、現実的な組合せとしてはもう少し小さな枠組みがよい。

広大な面積となるため諸問題が内在している可能性があるなど、枠組みが大きくなると市町村協議を進める際の調整に難航が予想され、また、住民理解が得られるかとの問題がある。

県二圏域

人口バランスが著しく悪い。

大田消防が消防と医療の連携を図る救急業務高度化推進協議会の圏域(以下「MC圏域」という。)と分けられる。

大田消防をMC圏域に合わせるため東部に入ると、人口バランスが更に悪くなる

左記理由により、今後は広域化の圏域の検討から除外する

県三圏域

MC圏域をベースに江邑以西をまとめた圏域であり、地域的なつながりがある。

市町村における調整など現実的な問題を考えれば、県三圏域を視野に入れながら県四圏域もある。計画としては県三圏域が県四圏域がよい。

県四圏域

MC圏域を考えれば、この圏域になじみがある。

西部の二圏域について、人員や指令台の集約効果の点で広域化のメリットが少ない(益田消防においてはメリットが享受できない)。

将来推計人口によると、西部の二圏域は10万人未満の圏域となる。

最初のステップとしてはこの圏域、将来的に更なる広域化との考えもある。

将来的には県一圏域、現実的な広域化方策としては、県三圏域又は県四圏域という意見が多かった。次回の委員会で更に検討する。

その他の事項について

報告書素案を次回検討委員会で検討する。